

# 教育長だより

No. 23

2022年11月17日

## 根源・長期・多様

～ 平川理恵さん（広島県教育長）の教育理念 ～

先日（11/9 水）B&G 全国教育長会議（東京）に参加しました。その基調講演で広島県の教育長：平川理恵さんのお話を聞きました。以下に紹介します。

一番の注目は商業高校の改革です。「商業高校アップデート元年」として、2020年度から始まりました。その目玉が『ビジネス探求プログラム』です。1年生に週4時間連続で行う授業で、先生が一方向的に教えるのではなく、生徒が自分たちで考えるプロジェクト型授業です。これが生徒を大きく変えました。まるで小学校の授業のように生徒たちが「はい！」「はい！」と次々と手を挙げて自分の言葉で意見を言っているのです。高校生がですよ。笑顔があふれる教室です。この様子は、NHKのテレビでも紹介されたとのこと。この新しい授業を仕掛けたのが、教育長の平川さんでした。

彼女は横浜市の公立中学校で全国初の民間出身の女性校長を経たのち、広島県の教育長になります。リクルート勤務当時から「現場主義」を徹底していた平川さんは、広島県の教育長着任後学校視察を繰り返します。そして、商業高校を訪れた時、「もったいない！」と思ったそうです。「商業というのはダイナミックでおもしろいもの」という認識がありました。彼女は20代はリクルートで営業職、30代には会社を起業していました。ビジネスは彼女の人生そのもので、「身震いするぐらい楽しいもの」という認識があったんです。なのに学校ではそろばんや電卓の演習でした。実際のビジネスとはあまりにもかけ離れていたのです。

この背景には、平川さんの強い危機感がありました。高校を卒業後も地元広島に残ってくれる子どもは誰なのかということです。県内に残って生活し、働いて広島県を支えてくれるのは、商業や工業、農業などの専門高校を卒業した子どもたちではないのか。県の未来を背負ってくれるのは、その多くが専門高校を卒業した子どもたちだということです。平川さんは「成績優秀なエリートは大都市の偏差値の高い大学へ進学し、就職後も地元に戻ってくるかわからない。」と考えました。それから、こうした商業高校などが地元からあまり評価されていないことも気になっていました。そして、そうした専門高校に生徒自身もあまり行きたがらない現状もあった。だから勉強に対するモチベーションも低い子が多く、寝ている生徒も結構いた。そこで、こうした子どもたちの心に火をつけたいと強く思ったそうです。

持ち前の行動力から、まずは改革に前向きな県の指導主事と商業高校の先生数人を連れてアメリカ・ロサンゼルスへ。（お金がなかったので、現地滞在は3日間。民泊で自炊。）現地の高校で生徒たちを見て、広島の先生はびっくり。机にはジュースがあったり、髪を金髪やいろんな色に染め、ピアスやタトゥー、化粧、服装もみんな個性的で、広島の高校との違いに驚くことばかりだったそうです。「えらいとこに来たな。」が第一印象。でも、授業が始まると、生徒たちががどンドン手を挙げて自分の意見をいっぱい言っていました。また、経済的に厳しい家庭の子がたくさん来る高校も訪問。数年前まではかなり荒れていたとのこと。そこでは今起きているビジネス問題をテーマに生き生きと学んでいました。一人の先

生が生徒に質問しました。「この学校のいいところは何ですか？」と。そうしたら、「先生が学ぶことを楽しくしてくれる。」と答えてくれました。一緒に来た先生たちはまさに「ガン！！」です。夕方宿舎に帰ると、教育長の平川さんは残っている先生たちに、「広島の高校へ帰ってからのカリキュラムを作りましょう。」と言って、自分はスーパーへ買い出し。平川さんが夕食づくりをしました。その間、先生たちはそれこそ必死で授業を考えました。

そうして考え出したのが、カリキュラムを貫く本質的な問いを『生きるって、何？』ということです。生きるためにはお金が必要。今広島で一番遅れているのは、お金の教育ではないかと。お金を稼ぐためにはどうすればいいのか。働くって？どんな仕事があるのか？などなど。こんな見通しを見つけて帰ってきたそうです。そして、コロナ禍での突然の臨時休校。実はこれが「不幸中の幸い」とでもいうのか、アメリカに行った4つの商業高校の先生が集まってカリキュラムを具体化するチャンスとなりました。そうしてできたのが「私のライフウェブチャートをつくろう。」です。高校に入るまでの15年の人生を振り返り、良かったこと、悪かったことをチャートに表すのです。楽しかったこと、苦しかったことなどを書き加えていく。そして、それを隣の子と見せ合う。それまで「自分だけ」と思っていたしんどいことが、隣の友達もいろんなしんどさを抱えながら生きてきたことを「発見」するのです。そうして、仲間と次々とつながっていき、安心感の中で自尊感情をとりもどしていくのです。自分の15年の人生を振り返り、どうやって生きてきたのか、何を大切にしてきたのか、誰とかかわってきたのか、これから何のために生きていくのかなどにしっかり向き合っていく授業です。スタート時はいくつかの困難もありましたが、この授業は大きな成果を収め、高校が大きく変わっていきました。生徒たちがどんどん積極的になっていったのです。(NHKでも放映されたとのこと)そして、商業高校から始まったこの改革は、次に工業高校にも取り入れられ、今年からは農業高校でも行われているそうです。

私はこの講演を聞いて、人とのつながりの大切さを思いました。以前、私たちの先輩が作り上げてきた同和教育で大切にしてきた「なかまづくり」です。広島職業高校の実践は、現代版の同和教育だと思います。いまこそ「まかまづくり」だと思います。

平川さんは講演の冒頭、「私は、『根源・長期・多様』、この3つを絶えず頭に入れて取り組んでいます。」ということを言われました。そして、この3つの言葉は何も教育に限ったことではなく、いろんな分野にも当てはまることではないかとも話されました。まず、根源とは、ものごとの根源的なものをしっかりとらえること。長期とは、長期的な視点で考えること。そして、多用とは、多様性の実現にどう結びつけていけるかを考えることです。平川さんは「根源、長期、多様、・・・根源、長期、多様、・・・」と口癖のように呟(つぶや)いているそうです。

#### ※ 平川理恵さんの経歴

京都出身で1991年リクルート入社。そして、アメリカの大学でMBA(経営学修士)を取得し、30代で留学仲介会社を起業。2010年に全国初の公立中学校民間人校長として横浜市の中学校に着任。不登校生のためのスペシャルサポートルームをつくるなどの教育改革に努めた。この間、中央教育審議会委員も務める。2018年より広島県教育長。

なお、この文章は当日の講演、ならびに平川さんの本『あなたの子どもが「自立」した大人になるために』(世界文化社)を参考にしました。